

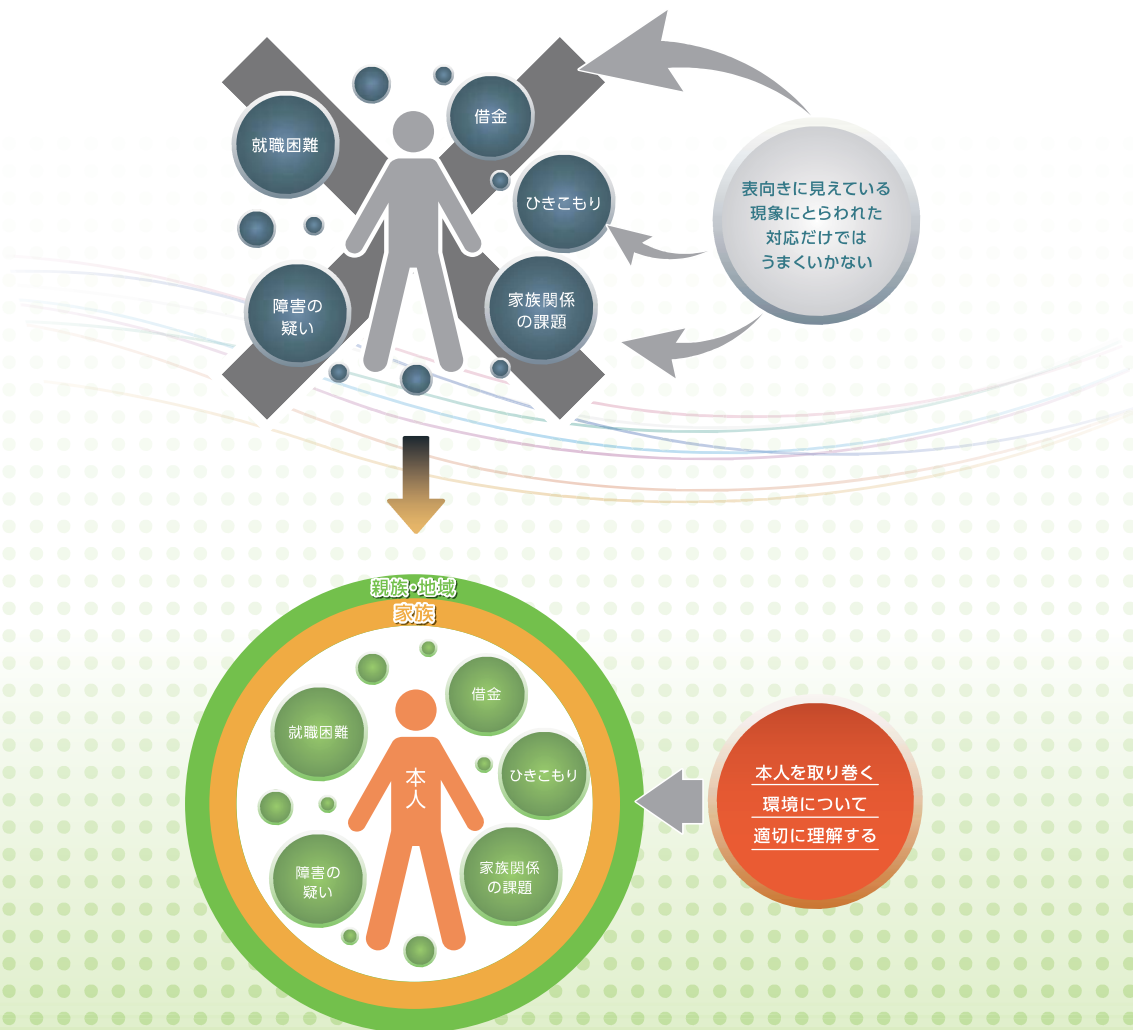
## 本人理解にもとづく相談支援の考え方

### ●本人と取り巻く環境について適切な理解に基づいて対応する

相談支援を効果的に進めるためには、本人が抱える課題の表向きの現象だけにとらわれて対応してはうまくいきません。本人と相談支援員との間に信頼に裏打ちされた援助関係を築きながら、本人とその家族や周囲の環境について情報を収集し、現象としてみえる課題の奥にあるものについての理解を深め、その人について適切に理解することが重要です。

#### <実践上のポイント>

- ・言語によって語られることだけでなく、時間や空間を共有する。
- ・表情や態度等、非言語の情報も含め、相談支援員が観察したり、感じ取ったことも取り上げていく。
- ・本人のこれまでの生活や現在の生活に関わってきた人たち（親族や近隣、関係機関等）からも必要な範囲で情報収集し、多面的に本人を理解していく。
- ・本人と周囲との関係を知り、価値観や考え方、行動に影響を与えている環境や人の存在を考える。



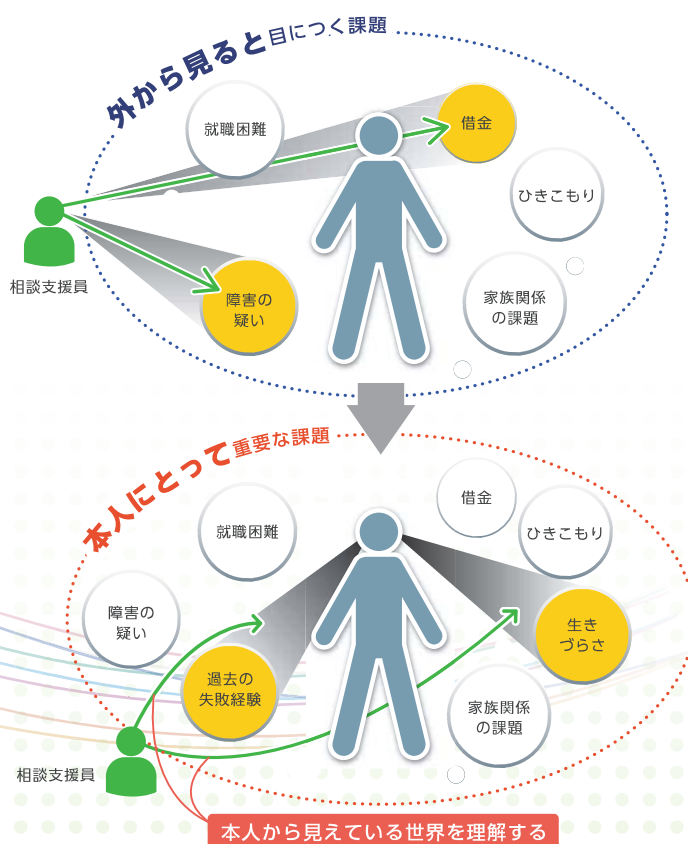
## ●本人の側に立って、本人から見える世界への理解を深める

本人理解に際しては、相談支援員の側から本人の状況や課題を捉えるだけでなく、本人の側に立って、本人から見た場合に、自分自身の状況や自分を取り巻く環境がどのように見えており、どのように課題を捉えているのか、すなわち「本人から見えている世界」への理解を深める必要があります。本人が解決するプロセスは、そこからしかスタートが切れないからです。

こうした理解に基づく相談支援であってこそ、本人が主体となって課題に取り組むことを支援することにつながります。

### <実践上のポイント>

- ・本人との良好な信頼関係を基礎として、本人の主訴を引き出す。
- ・生育歴や生活歴をひもとく、価値観や考え方、行動がどのように形成されてきたのかを考え、本人についての理解を深める。
- ・本人の認知や行動の特性やパターンを理解し、そのことによる生活のしづらさの有無や度合いを考える。
- ・社会的に逸脱した行動があったり、本人を取り巻く関係者と本人との認識にズレがある等の場合であっても、本人の側に立って、「なぜそうなるのか」、「本人は今どのような認識でいるのか」という理解に努める。
- ・本人の心情を理解し、生きづらさや自己肯定感の低下の状況などにも目を向ける。



## ●本人理解から本人への支援を導き出す

本人理解に基づいて本人への支援を進めていく際の考え方としては、相談支援員による課題解決の方法を考えるのではなく、本人自身が課題と向き合い解決していくことが重要であり、それを促すための相談支援員の働きかけの方法について考えることが大切です。

### <実践上のポイント>

- ・本人が思いや考えを整理するために、本人がそれらを言語化して相談支援員と話し合える関係をつくる。
- ・本人の変化に向けた歩みに一歩下がった位置で付き添い伴走しながら、共有した場面をいっしょに振り返り、本人が方向性を見出す手助けをする。
- ・本人が周囲に支えられながら課題に向き合って解決する経験を少しずつ積み重ね、自分と周囲に対する信頼を回復し、自分にできることについても気づいていけるように働きかける。
- ・本人の「現在」だけでなく、支援から離れたその後の本人の「未来」も視野に入れながら支援する。